

「ふみだそう、新しい発見の第一歩」
生徒が企画する国際理解集会＆一国学級活動、柏市国際交流協会との連携
Promotion of international goodwill at Tsuchi-jhs

田中 圭一郎
Keiichiro.Tanaka
tanaka@fureai.or.jp
今井 敦
Atsushi.Imai.
Atsushi.Imai@kiu.ne.jp
(柏市立土中学校)

要約：柏市国際交流協会と連携して、生徒の企画による国際理解集会、および一学級に一国を割り当てた学級活動を行った。

キーワード：国際理解教育、学級活動

1. 土中の国際理解教育（これまでの経過）

柏市との友好都市グアムからやってきたセントフランシス・スクールを本校へ招いての交流会（平成7,8,10年実施）

「ネパール報告会」青少年赤十字メンバー海外派遣メンバーに選ばれた本校生徒がネパールについて報告会を開いた（平成7,8,9年実施）

国際理解集会「コロンビア」コロンビア人バルガス・ルセロさんを招いての学習会

*3年選択授業＆全校集会（平成10年実施）

ブータン王国の新聞記者ドルジさんを招いての「ブータン王国学習会」（1年生）（平成10年実施）

<生徒感想>

「日本とは全く違うと思っていたブータンが日本と似ている所があると知って驚いた。もしかしたら日本人とブータンの人は、もとは同じ人から分かれたのかもしれないと考えた。また、機会があったらこのような会を開いて、外国の事をもっと知りたいと思っている。」

2年生選択授業「スペイン語」講師スペイン人浅野マリアンジェルスさん前期10名、後期16名が履修し学習している

(平成10年度)

* に関しては柏市国際交流協会（市役所国際交流課）に協力していただいた。

2. 国際理解集会＆一国学級活動

これまでの国際理解学習をさらに発展させるため、今回は各学級がそれぞれ違う国の人を招き、その国を学習する活動を行った。

<協力いただいた講師の出身国>

中国・韓国・コロンビア・アメリカ
ペルー・ネパール・ケニア・イラン

フィンランド・スイス・インドネシア
スペイン（12カ国）

* 目的

外国と日本との違いや共通点を外国人から直接学ぶことによって、多様な価値観や考え方を知り、自分達にできることを学習する。柏市国際交流協会との連携を通して、さらに世界への窓口を広げていく。

講師との関係構築（準備委員を中心に）

トピックアルバムを作成して、それを送ることで学級を紹介し、講師との距離を縮める。次に電話連絡を行い、互いに「何ができるのか」「何をしてもらいたいのか」を確認し、当日の学級活動の構想を練る。（今回の学級活動は生徒と講師との全くの手作りであり、こうしたなければならないという制約はなかった。そのことが準備委員を始め、生徒達をさらにやる気にさせた。（電話連絡だけでは互いにも足らず、講師のお宅に家庭訪問して打ち合わせをした学級が半分以上にのぼった。）

国際理解集会と学級活動

当日の集会では柏市国際交流課の方と、柏市国際交流プログラムに参加した（麗澤大学3年生の）鳴海さんの話によって、柏市の国際交流の状況を学習した。また、ネパール（大学院留学中）・フィンランド・アメリカ（市立柏高校ALT）・ペルー（日系人）の方を代表として、様々な角度から日本に暮らして感じることを話していただいた。

<学級活動内容>

中国：水餃子作り（調理）
スペイン：スペイン風オムレツ作り（調理）
ペルー：ペルーにおける日系人の歴史

コロンビア：コロンビアの踊り
 ケニア：ケニアの子供の遊び
 アメリカ：柏市姉妹都市トーランスについて
 その他各国々の紹介

生徒の感想 & 成果

< 3年生 >

* 今回の集会で、柏にこんなにたくさんの外国の方がいることを知りました。それにクラスのみんなと一緒に他の国の人と遊んだりすることは楽しいことなんだなと思いました。

* 住んでいる国が違うだけで、同じ人間なのに考え方がこんなに違うものなのだなと思いました。どの国の人も、自分の国に誇りを持っていて素敵だなと思った。 * 日本人には日本人の、他国の人には自分の国の考え方・見方があり、それらはかなり異なるものだということに気づき、興味を持った。もっと変わった角度からものを考えたり、見たりしてみたいと思った。

< 2年生 >

* 世界の人が日本に来て苦労したことや、今感じていることを聞いて、見えないところで苦労していることがわかった。韓国のことも詳しく知れて貴重な体験でした。また、こういう会を開いてください。* イランの国についての歴史、建造物や特産物、遊びなどいろいろ説明してもらった。今までイランにはあまり関心が無く、よく知らなかったので今回の学級活動はとても役に立った。

< 1年生 >

* スイスの人と話すのは生まれて初めてだったので、はじめはドキドキしたけれど、話しているうちにだんだん慣れていきました。もっと国際理解集会などがやりたいなと思いました。* 話は少し難しかったけど、戦争のときのペルーの人のことやペルーの食べ物の中で、今までより新しいことを知ることができました。学級活動では、学級の雰囲気も良く、楽しく交流でき、ペルーのことを前よりは理解することができました。

(1) なぜ一国一学級だったのか？

世界には多くの国々があり、人種・文化・言語などがあるというのに、外国人というと学校

では主に英語を母国語とする国の人を中心になっている。そのような環境に慣れてしまっている生徒を根本から変えるためには様々な国があることを肌で感じさせる必要があると考えた。生徒の感想を読むとその目的が達成されたことがわかる。また、学級ごとに取り組むことによって学級担任も一緒になり、学級経営の一環として国際理解教育を実践することができた。

(2) 生徒中心に学級活動を企画させた成果

外国人だからといって、特別な接し方があるわけではない。人と人との交流の基本は、実際に顔をあわせて話をすることである。講師の方も、はじめは簡単な気持ちで引き受けた講師であったが、生徒と連絡を取り合っていくうちに「生徒が真剣なのだから、私もしっかりと準備しなければならないと思うようになりました。」と告白してくれた方もいた。その後も各学級ごとに連絡を取り合っているようである。

(3) 柏市国際交流協会との連携理由

企画の段階から柏市国際交流課と連絡を密にして協力していただいた。それは、学校現場だけでできることの限界と公的機関との連携を持つことによってできることの可能性を考えたからである。

(4) 生徒に学ばせたかった国際人感覚とは？

国際化、国際理解は特別なことではなく、自分達の身近な所から見ていく視点が大切である。私たちが住んでいる柏市内にすら 3000 人の外国人が暮らしている。現実には即した国際理解とは、近所に住んでいる我々が互いに知り合う機会を持ち、交流しあうことによって距離感を縮めていくことが大切である。

おわりに

世界には欧米だけではなく、様々な文化・人種・言語があることを生徒は肌で感じる事ができた。また、柏市に在住している講師の方々にも良い交流の機会になった。同じ町に暮らしていても交流がなく、このような機会を待っていたとのことだった。